

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 3月1日

この日は県森連の開設64周年記念市であった。思えば退職して以来この記念市を見たのは初めてだったと思う。もちろん以前のような賑々しさは無く、式典も無かった。会場にあったのは、ホワイトボードの後ろに、上位出荷者と上位買い方の賞状と感謝状それに記念品がひっそりと並んでいるだけの、開設記念市だった。

本来なら式次第に上位出荷者や上位買い方の名前も表示されるはずだが、式典が無かったので、名簿は内部資料になってしまい、見ることは出来なかった。上位出荷者には 利根沼田・渋川広域・多野東部などの組合名が見えた。上位買い方では、秩父のウッディコイケや下仁田の白山製材と言った処だ。

市況は前回懸念した 3.0m 柱材のだぶつきが、深刻になったらしく少し値下がりの傾向が見えたが、明細書からも姿が消えている。出荷者がいち早く反応した結果と思いたい、明細書を見渡す限りそんな鋭敏さは感じられず、たまたま大径木が多かっただけの様だ。

4.0m も角材用の価格は横ばいの様だ。今回は 4.0m も角材用の径級は少ない。大径木で価値があるのは本玉からせいぜい 2 番玉までで、その上から出てくる節は大きくなり、裏コケ(元口と末口の差が大きくなると、間伐材の同じ径級よりも始末が悪い。もっとも昔は、これを 3.0m に伐り直すと、末口が飛躍的に大きくなり材積が上がるので、低質の角材用には好まれた時期もあった。更にこれがヒノキの大径木の先っぽで、大節も全て生き節で、長さ 30 cm 辺り 1 個～2 個と平均に出ていると”節柱”として床柱などに使われ、銘木の仲間入りをしたものだった。今の国産材市場から見ると、ゴミの山のように見える材の中に宝石が眠っているような夢のある世界だった。

今でも素生協には素材生産業者の生産する材の中に、広葉樹が多く含まれている。広葉樹市場は スギ・ヒノキ などとは全く別の世界なので、多くは細工用だが時々大化けして高価な値が付くことがある。但しケヤキはダメだ。クリ・ミズナラ・トチなどは化ける事がある。カキは細くても木口を見よう。芯が黒ければ、化ける事もある。

脱線したがスギ・ヒノキの話に戻ると、立木はもう春の活動を始めている。含水率が上がり始めているので、伐り旬を過ぎようとしているが、これを待って居る買い方も有ると言う。落札したらすぐに持ち帰り製材してしまえば虫害の心配はない、更に乾燥技術が進み含水率もコントロールできる。ハウス野菜の様に原木市場にも旬が無くなりつつある様だ。

調査日 素材生産協同組合 3月7日

素生協は作業効率の深刻さが続いている様だ。新井所長によれば「一時は随分片付いたのだが、月曜日になるといっばいになっている。」との事だ。現に見ている前で赤城造林のトラックがグラブプを使って狭い場所に高々と積み上げていた。確かに玄関前あたりに降りている材は、新しく入れ替わっている様だ。しかし、その奥で通路を塞いでいる材は、少しも変わっていない所を見ると、やはり新しく入荷した分を処理するのが精一杯で、昨年入荷して手が付かなかった材までは届かない状況が続いている様だ。

土場を廻ってみると、落札したまま引き取られない材が、益々目立つ。入札の結果発表の際に、引き取りを急いでほしい旨を訴えているが、製品市場のだぶつきを考えれば、なかなか引き取りが進まないのも、致し方ないのかも知れない。とは言え、発表を聞いている中で、唯一市場側に居た経験を持つ私には、市場の苦悩がよく分かる。

”選別機のゲートが多い”と言う事は選別能力が高い訳で、仮にスギ・ヒノキ混載の入荷であっても、同時に仕分けができる。県森連の場合は、ゲートを1つヒノキだけにして、スギを先に選別して、後でもう一度ヒノキだけで選別するというような方法を取っていた。だから同じ土場に後ろがスギの3.0mで、その前にヒノキの3.0mが並ぶ事はよくあった。

しかしゲートの数が多いと言う事は、同時に、ゲートの数だけ空いている土場が必要になると言う事だ。1~2箇所空きゲートだけでは選別機は動かせない。一長一短と言う事だ。

製品市場のだぶつきは、コロナ禍の終息も関係がある様だ。世界的にリモートワークで在宅勤務傾向が進んだ。こうなると家は物価が安く広々とした郊外の方が良く、住宅需要が高まった。これがウッドショックとなって現れた訳だが、その他にも細かい所で、リモート画面の背景や衣服が話題になりリフォーム需要が出た。しかしこのコロナ禍による前倒し需要が収まった今、その反動が来ている時期に有ると言う。

円安が続き、住宅資材が値上がり続ける中で、住宅用木材はだぶつき、値が下がっている。木材の価格が下がっている中で、住宅価格その物は値上がり続けている。今回林ベニヤがカラマツを1件落札したが、20,000円/m<sup>3</sup>を下回っている。スギの2.0mは白山製材がまとめて落札した。落札価格が同じなのは、”流し”と言って、10束ひとからげと言う事だ。白山製材も引取の遅い業者だが、今回は背に腹は代えられなかったのだろう。これ以上安くなればバイオマス行きだが、価格を優先したのだろう。幾つか見える高値の物件は当用買いと見える。